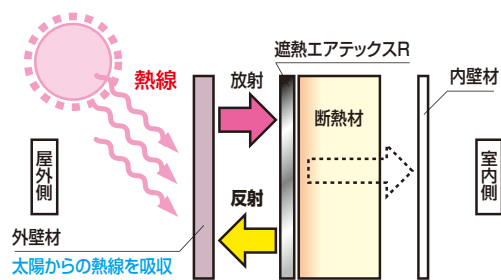
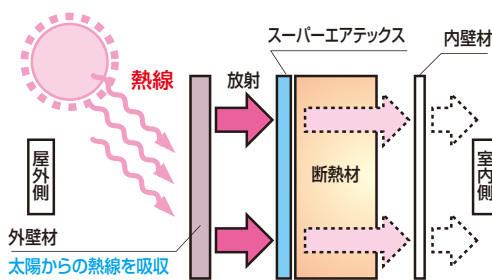


従来品との違い 屋内の冷暖房効率がUP! 省エネにもつながります。



●「遮熱エアテックスR」の場合

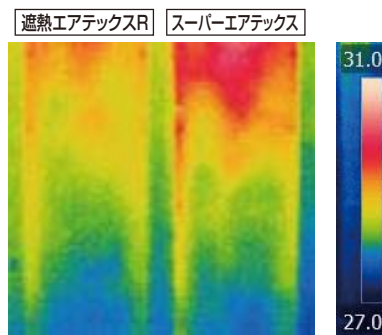
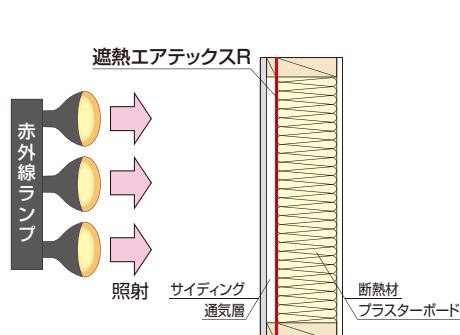
外壁材の放射熱を、「遮熱エアテックスR」のアルミ蒸着層が反射します。それにより断熱材が吸収する熱は大幅に減り、室内側への熱の侵入も減少します。



●遮熱機能のない従来の「スーパーエアテックス」の場合

外壁材の放射熱を断熱材がそのまま吸収し、その吸収熱を放射。その熱が内壁を通して室内側へ侵入します。

室内外の温度及び外気側の照射熱量に相当する条件を再現できる人工気候室に、試験体となる外壁モデルを設置。外壁側から赤外線を照射して、モデルを通過する熱量の違いを測定しました。



※データ測定値であり、保証値ではありません。

■遮熱エアテックス物性表比較 ※下記数値は測定値であり、保証値ではありません。

性能項目	評価項目	単位	JIS A 6111 : 2004	遮熱エアテックスR
			透湿防水シートB	
透湿抵抗		$m^2 \cdot s \cdot Pa / \mu g$	0.13以下	0.13以下
結露防止性		—	室内側20°C・60%、外気側-5°Cの条件で結露しない。	結露は認められなかった。
強度	引張強さ	N	縦、横とも100以上	縦:200以上 横:150以上
	つづり針保持強さ	N	縦、横とも27以上	縦:40以上 横:40以上
発火性		—	発火しない。	発火しない。
防水性	水圧	kPa	10以上	20以上
	水圧	kPa	8以上	8以上
耐久性	引張強度残存率	%	縦、横とも初期値の残存率50以上	50以上
熱収縮性	収縮率	%	1.5以下	1.0以下
防風性(通過時間)		s	10以上	15以上

⚠注意 保管・使用時のご注意

- 遮熱エアテックスRは壁用です。
- 遮熱エアテックスRは屋根防水紙には使用しないでください。(屋根防水には「遮熱ルーフェアテックス」をご使用ください。)
- フキビ遮熱・透湿・防水シート施工説明書ならびに日本窯業外装材協会発行の技術資料に従って施工してください。
- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。●遮熱エアテックスR施工後は60日以内に外装材施工を終了してください。
- 透湿防水シートとしてのみ使用し、外装材とシートの間に必ず通気層を設けてください。
- 現場にて小巻作業を行う場合は、直接地面・道路等に広げず、シート巻芯にシャフト等を通して巻き戻してください。(小巻時にシートが引かずらると、シート表面に穴が空く恐れがあります。)
- 柱や土台など構造材に防腐・防蟻剤を使用する場合は、遮熱エアテックスRの施工前に行い、完全に乾燥してからシートを施工してください。
- 防腐・防蟻処理した通気胴縁は使用しないでください。(防腐・防蟻処理した通気胴縁は、雨水がかかると薬剤成分が流れ出すものがあり、透湿防水シートの防水性能を低下させるおそれがあります。)
- 火及び高熱によって溶けたり燃えたりすることがありますので、火や高熱物を近づけないでください。
- 遮熱エアテックスRをサッシ廻りに施工する際、フキビ「ハイブリッド防水テープ」、『アクリル気密防水テープ』を使用して下さい。ブチル系の防水テープは剥がれる危険性があるため、使用しないで下さい。(P.137参照下さい)
- 製品に継ぎ目がある場合がございますが機能上問題ございません。
- シート表面に防水テープを貼ったら剥がさないでください。
- シート単体で防水を保証するものではありません。施工後に降雨が予想される場合は濡れないように養生をお願い致します。
- 当社製品の裏面に直接ウレタン吹き付けをしないでください。
- (シート裏面に直接吹き付けると、透湿防水シートの性能・品質に影響を及ぼすおそれがあり、また外壁通気工法の通気層を阻害するおそれがあります。)